

1. 件名：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構高速実験炉原子炉施設の
設置変更許可申請に係る事業者とのヒアリング（175）

2. 日時：令和4年9月9日（金）13：30～16：00

3. 場所：原子力規制庁10階南会議室
※本ヒアリングは、テレビ会議システムで実施

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

審査グループ 研究炉等審査部門

荒川安全管理調査官、有吉上席安全審査官、片野管理官補佐、

小舞管理官補佐、島田安全審査官、羽賀技術参与、安澤技術参与

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

安全・核セキュリティ統括本部 安全・核セキュリティ推進室 担当者

大洗研究所 高速実験炉部 次長 他8名

5. 要旨

○国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下「原子力機構」という。）から、今後の審査スケジュールについて、まとめ資料を10月上旬及び11月中旬の2回に分けて提出すること、また、補正申請を11月末に提出する予定であることの説明があった。この説明に対して、原子力規制庁より以下のコメントを伝えた。なお、本日、時間の関係でヒアリングできなかった項目については次回以降改めて確認することとした。

- ・各条に対する基準適合性の確認を確実にする観点から、基準適合性の確認に必要な事項を、本文又は添付に確実に記載し、そのエビデンスとなる説明が補足資料に確実に記載されているか改めて確認すること。
- ・前回ヒアリング（令和4年9月6日実施）においてコメントした耐震評価における床応答スペクトルの作成において、地盤物性のばらつき $\pm 1\sigma$ をどのように評価・算定したかを説明すること。

○原子力機構から承知した旨の返答があった。

6. 配布資料

- 資料 1 : 地震観測シミュレーションによる原子炉建物及び原子炉附属建物の地震応答解析モデルの妥当性確認
- 資料 2 : 地震観測シミュレーションによる主冷却機建物の地震応答解析モデルの妥当性確認
- 資料 3 : Sクラス施設への波及的影響を考慮すべき施設の検討
- 資料 4 : 「常陽」新規規制基準適合に係る溢水による損傷の防止の設計成立性について
- 資料 5 : 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構大洗研究所（南地区）高速実験炉原子炉施設（「常陽」）第 6 条（外部からの衝撃による損傷の防止）（その 1 : 耐竜巻設計、耐降下火砕物設計及び耐外部火災設計を除く。）
- 資料 6 : 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構大洗研究所（南地区）高速実験炉原子炉施設（「常陽」）第 6 条（外部からの衝撃による損傷の防止）（その 2 : 耐外部火災設計）
- 資料 7 : 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構大洗研究所（南地区）高速実験炉原子炉施設（「常陽」）第 6 条（外部からの衝撃による損傷の防止）（その 3 : 耐降下火砕物設計）
- 資料 8 : 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構大洗研究所（南地区）高速実験炉原子炉施設（「常陽」）第 18 条（安全保護回路）
- 資料 9 : 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構大洗研究所（南地区）高速実験炉原子炉施設（「常陽」）第 44 条（燃料体等の取扱施設及び貯蔵施設）
- 資料 10 : 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構大洗研究所（南地区）高速実験炉原子炉施設（「常陽」）第 51 条（監視設備）